

胸壁内に存在し、病理学的には Castleman病のhyaline-vascular型と診断した。今症例は胸壁に発生しており、過去の症例報告でも稀な部位であり報告した。

61. 原発性クリプトコックス症の1例

鹿児島大放射線科 野口一成
向井浩文, 中條政敬, 森山高明
県立鹿屋病院 島田受理夫
国立南九州病院 廣津泰寛
脇本謙二

悪性腫瘍を否定できない為胸開肺生検を施行し、原発性肺クリプトコックス症と診断した一例を経験したので報告した。症例は41歳の男性で、平成5年7月の検診で胸部異常陰影を指摘され、7月19日に県立鹿屋病院を受診した。胸部CT上、右S⁶に比較的境界明瞭で胸膜陷入像と末梢性の脈管集束を伴う径1.5cmの結節影を認めた。PAS, グロコット, アルシャンブルー染色で菌体成分を認め原発性肺クリプトコックス症と診断した。

62. 気管支粘表皮癌の1例

北九州市医療センター呼吸器外科 井上 隆

症例は17歳女性、咳嗽・喀痰を主訴に受診。胸写上左下葉の無気肺が、気管支鏡では左主気管支にポリープ状腫瘍が認められた。術中病理検査にて粘表皮癌と診断され左下葉スリーブ切除術を施行した。現在術後13ヵ月であるが再発なく生存中である。自験例を加えた本邦報告例計59例を検討した。その臨床的特徴は若年者・中枢側発生・有症状例が多く高悪性度症例が約1/4に存在した。手術は気管・気管支形成術の適応となる症例が多くみられた。

63. 慢性結核性膿胸に対する胸郭形成術後に発生した胸膜

悪性リンパ腫の1剖検例

産業医大第1病理 笠井孝彦
藤野雅世, 橋本 洋
同 第1内科 吉積宏治
江藤澄哉

38年前に右結核性膿胸に対して胸郭形成術が施行された67歳男性の胸膜に発生した悪性リンパ腫の腫瘍細胞に、EB virusの感染がIn situ hybridization法により確認できた剖検例を経験したので報告する。免疫組織化学的にはリンパ腫細胞はL26, MB-1, UCHL-1には陰性であったが、MT-1陽性であり、T cell由来の可能性が考えられた。

64. 縦隔germ cell tumorの1例

大分医大第2内科 宮崎幸彦
seminoma, choriocarcinoma, yolk sac tumor, teratomaの成分が混在した縦隔mixed germ cell tumorの1例を経験した。

症例は21歳、男性。右前胸部痛にて来院。胸部レ線にて右縦隔腫瘍を認め、経皮針生検にてseminomaと診断されたが、AFP, HCG, HCG-βが高値であり、その他の腫瘍成分の混在が示唆された。抗癌剤、放射線療法にて腫瘍内部に広範な壊死を認めたが、腫瘍径は縮小せず、腫瘍摘出術施行。摘出標本の大部分はteratomaであった。

65. 限局性胸膜中皮腫の3例

大分市立医師会アルメイダ病院
胸部外科 一万田充俊
同 呼吸器科 李 泰成
三重野龍彦
岸 健志

3例の限局性胸膜中皮腫を報告した。1例は胸壁に浸潤した悪性で腫瘍内にアスベストト体がみられた。1例は肺内へ埋没するように発育し、他の1例は臓側胸膜から有茎性に発育してい

た。悪性限局性の胸膜中皮腫は珍しいので報告した。

66. 限局性胸膜中皮腫5例の臨床的検討

国療沖縄病院外科 野里栄治
河崎英範, 友利寛文, 川畑 勉
大田守雄, 国吉真行, 山内和雄
石川清司, 源河圭一郎

限局性胸膜中皮腫5例について、その臨床像を検討したので報告する。5例の内訳は悪性2例、良性3例で男性3例、女性2例、年齢35~73歳であった。発見動機は悪性の1例を除き検診発見で、全例発見時に胸水の貯留はなく術前検査から胸膜中皮腫の確定が得られたものはないかった。悪性2例は4年内に死亡し予後不良であったが、良性3例は肺部分切除術、胸腔鏡下手術が施行され再発なく経過良好である。

67. 化学療法後に胸膜肺全摘術を施行した播種性胸腺腫

鹿児島大第1外科 崎田浩徳
下高原哲朗, 豊山博信
小山洋樹, 柳 正和, 松本英彥
西島浩雄, 愛甲 孝
同 第3内科 川畑政治
納 光弘

術前化学療法後に摘出術を施行した播種性浸潤型胸腺腫の1例を経験したので報告する。

症例は39歳、女性。眼瞼下垂、複視を主訴として来院。重症筋無力症および播種性胸腺腫の診断。術前治療としてCAVUPを10Course実施した結果、PRの効果が得られた。1992年6月開胸、胸膜肺全摘術、拡大胸腺摘出術、鎖骨上窓リンパ節郭清を施行した。正岡の分類ではIVb期であった。術後24ヵ月経過した現在、再発なく外来通院中である。

68. 悪性胸膜中皮腫の検討